

第53回 田園文化都市研究会!

●齊藤 恵様の「最澄と空海」を学んで その1

11月29日(土)の久喜麗和会 第53回 田園文化都市

研究会では、齊藤 恵様 (高 18) による研究報告「最澄と空海」でした。齊藤様は、一ツ橋大学を卒業され、服部時計店を経てご実家の齊藤時計店に入り(株)エル・サイトウと改めて現在に至っているそうです。大学時代には、経済学よりも歴史を研究されていたそうで、これまでの同研究会では歴史や美術史について報告されているそうです。いただいた資料を基に学んだことを記録しておきたいと思います。



◇ ◇

■最澄と空海

平安時代初期、ほぼ同時代を生きた仏教界の巨人が 2 人いました。この 2 人の人生を知ると日本仏教の背景が、かなり違って見えてきます。これを知っておくと、様々な宗派のお寺詣でがずっと面白くなると思います。

- ◇最澄 (767-822 年) 天台宗の開祖。伝教大師。比叡山・延暦寺。近江国・坂本 (現・滋賀県大津市) の渡来系豪族の出身。14 歳で得度したが、スキャンダルに満ちていた南都 (奈良) 仏教を嫌悪して 1 人比叡山に登り孤独な修行僧となる。当時、平城京脱出を考えていた桓武天皇 (737-806 年) に認められ、仏教界のエリートとなる。
- ◇空海 (774-835 年) 真言宗の開祖。弘法大師。高野山・金剛峯寺。讃岐国 (現香川県善通寺市) の地方長官の 3 男として生まれ、14 歳で平城京に上り、学問を修めますが飽き足らず、18 歳で山林修行者となり、得度もせずに 12 年間、非正規の僧 (私度僧) として修行する。



最澄像 (国宝)、平安時代 (11 世紀)、一乗寺蔵



空海の肖像 (真如様大師)

◆伝統的な日本仏教: 13 宗

- ◇奈良仏教系の 3 宗 (法相宗、華嚴宗、律宗)
- ◇平安時代初期に成立した 2 宗 (天台宗、真言宗)
- ◇平安時代後期から鎌倉時代に成立した浄土系 4 宗 (浄土宗、浄土真宗、時宗、融通念仏宗)
- ◇浄土教系とほぼ前後して成立した禅宗系 2 宗 (臨済宗、曹洞宗)
- ◇鎌倉時代に成立した日蓮宗
- ◇近世初期 (1661 年) に中国から伝わった禅宗系の黄檗宗 (おうばくしゅう)

※天台宗、真言宗以降に成立した 7 宗はすべて天台宗=比叡山から誕生しています。真言宗からではありません。

〔浄土宗(法然)、浄土真宗(親鸞)、時宗(一遍)、融通念仏宗(良忍)、臨済宗(栄西)、曹洞宗(栄西)、日蓮宗(日蓮)〕

◇各宗派の特徴など [香田追記:「仏さんぽ」より引用]

宗派名	開祖	ご本尊	主な教え・特徴	主に唱える言葉	有名なお寺
天台宗	最澄	定めなし	誰もが仏になれる性質を持つという「法華経」の教えが中心。総合的な仏教。	南無阿弥陀仏など	比叡山延暦寺 (滋賀)
真言宗	空海	大日如来	厳しい修行により、この身のままで仏になる「即身成仏」を目指す密教。	南無大師返照金剛	高野山金剛峯寺 (和歌山)
浄土宗	法然	阿弥陀如来	ひたすら念仏「南無阿弥陀仏」を唱える事で、極楽浄土	南無阿弥陀仏	知恩院 (京都)
浄土真宗	親鸞	阿弥陀如来	阿弥陀仏の力を信じる心だけで救われる (悪人正機)。念仏は感謝の表現	南無阿弥陀仏	西本願寺・東本願寺 (京都)
時宗	一遍	阿弥陀如来	「踊念仏」で知られる。全国を遊行し、人々に念仏札を配った	南無阿弥陀仏	清浄光寺 (神奈川)
臨済宗	栄西	釈迦如来	師との問答 (公案) を通じて、自らの悟りを開くことを目指す「禅宗」	(特定の言葉なし)	建仁寺、龍安寺 (京都)
曹洞宗	道元	釈迦如来	たたひたすら壁に向かって坐禅する「只管打坐」。坐禅そのものが悟り	(特定の言葉なし)	永平寺(福井) 總持寺(神奈川)
日蓮宗	日蓮	(大曼荼羅)	「法華経」こそが最高の教え。題目の「南無妙法蓮華経」を唱える	南無妙法蓮華経	久遠寺 (山梨)

◆遣唐使

遣唐使は 630 年から 838 年の約 200 年の間約 20 回にわたり日本が唐に派遣した施設団であり、船の平均生還率は 50% で、きわめて高い遭難リスクを持っていました。遣唐使以前は遣隋使（600-618 年）の間に 3~5 回派遣されています。遣唐使が廃止されてからは、日宋貿易（10-13 世紀）に変わっていきました。遣唐使の航路[写真右:hellmnet より引用]は 3 つあり、初期（630-665 年）は朝鮮半島周辺を通る「北路（新羅道）」、中期（702-752 年）は屋久島、奄美島、沖縄（阿兒奈波）などを通る「南島路」、後期（773-838 年）は九州から中国杭州へ直行する「南路（大洋路）」が使われていました。



最澄と空海は、804 年に同じ遣唐使に同行して出発しました。当時、最澄は 37 歳、空海は 30 歳でした。この時の遣唐使船は 4 隻で、空海は第 1 船、最澄は第 2 船に搭乗しますが、お互いに面識はなかったと思われます。第 3 船と第 4 船は途中で難破し、かろうじて第 3 船の乗員だけは脱出して大宰府に帰り着きました。

遣唐使には、大使や副使といった交易や外交という政治的な面に携わる人と、文化や制度を学ぶ留学生が派遣されていましたが、最澄は還学生（げんがくしょう）で、空海は留学生（るがくしょう）と身分の差がありました。

- ◇ 還学生：派遣後 1 年ほどで日本に帰ってくるができる学生。無事帰国すれば、「入唐還学生（にっとうげんがくしょう）」となり、趙エリートとしての活躍が保証されました。
- ◇ 留学生：派遣された中国に 20 年間は留め置かれて、すぐには帰国できない学生。当時の衛生状態や渡航技術を考えると、ほとんど故国に変えることができなかつた人たち。

◆日本への仏教伝来、受戒

日本に仏教が伝わったのは一応 538 年とされています。伝来初期以来、不完全な戒律しか伝わっておらず、次第に僧になる者（私度僧）が続出しました。その最大の理由は、僧には課役（税）が免除されていたからで、朝廷はこれを解決するために、聖武天皇（701-756 年）は鑑真（688-763 年）を平城京に招きました。理由は、正式な僧を作るための儀式「受戒」（得度）の作法を取り入れるためでした。鑑真は 5 度の渡海に失敗するものの 6 回目で成功し、754 年に日本に渡ってきました。その年、鑑真が東大寺に「戒壇」[写真右:東大寺戒壇院戒壇堂より引用]を設けて、日本で初めての受戒を行い、聖武天皇をはじめ 430 人が受戒を受けた初めての僧が誕生するのです。以後、受戒をする場所（戒壇院）をどこに設けるかで、長い間大きな争いが続きましたが、最終的には下記に戒壇が設けられました。



- ◇ 天下の三戒壇（奈良・東大寺、大宰府・観世音寺、下野・薬師寺）
- ◇ 大乘戒壇（比叡山・延暦寺）、真言律戒壇（奈良・西大寺）、尼戒壇（奈良・法華寺）、唐招提寺戒壇、鎌倉仏教系戒壇

◆歴代天皇と遷都の歴史



古来、天皇に住居である「宮」は、一代限りで移転するのが習慣でありましたが、690 年に即位した第 41 代 持統天皇は、中国を手本とした中央集権国家建設を推進するために、694 年に藤原京へ遷都しました。藤原京は、「宮」の周囲に計画的な市街地を配置した「京」と呼ばれる都市で、初の本格的な都とされます。その後、平城京、長岡京、平安京と 200 年の間に 12 回もの遷都が行われたそうです。[図と表:遷都の歴史「歴史のまとめ memo」より引用]

遷都の理由は、天皇の代替わり、洪水や疫病避難、水運の便などと

遷都年	都	天皇
643 年	飛鳥板蓋宮	皇極天皇
645 年	難波長柄豊崎宮	孝徳天皇
655 年	飛鳥宮	斉明天皇 (皇極天皇)
667 年	近江大津宮	天智天皇
672 年	飛鳥浄御原宮	天武天皇
694 年	藤原京	持統天皇
710 年	平城京	元明天皇
740~745 年	恭仁京、難波宮、紫香楽宮、平城京	聖武天皇
784 年	長岡京	桓武天皇
794 年	平安京	桓武天皇

もに旧来仏教勢力の排除というものもあったようですので、仏教の普及が大きかったのだですね。 <つづく>